

ネオニコチノイドプロジェクト

	助成先/企画名/活動内容	成果物		
2011年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド系農薬 国際シンポジウム 「ミツバチ・生態系・子どもたちを守るために」～ 欧州に学ぶネオニコチノイド対策～</p> <p>(活動内容) ネオニコチノイド系農薬について、対策が進むヨーロッパの規制状況を学び、日本での予防原則に役立てるための緊急セミナーを開催。 1、「ネオニコチノイド系農薬のミツバチへの影響」大谷剛さん(兵庫県立大学教授) 2、「ドイツ・EUでのミツバチ被害の実態」ウオルター・ヘフェカー(Walter Haefeker)さん(ヨーロッパ職業的養蜂家連盟代表) (午後) 3、「EUのネオニコチノイド農薬規制とイギリスの現状」マツ・シャルドラウ(Matt Shardlow)さん(英NPO団体バグライフ代表) 4、「環境化学物質と子どもの脳の発達障害 ネオニコチノイド・有機リン農薬の危険性」黒田洋一郎さん(脳神経学者・元東京都神経科学研究所)</p>	1	DVD「ミツバチからのメッセージ」	http://no-neonico.jp/dvd_index/
		2	ネオニコチノイド系農薬 緊急セミナー開催 「ミツバチ・生態系・子どもたちを守るために」～ 欧州に学ぶネオニコチノイド対策～	http://no-neonico.jp/wp-content/uploads/2012/02/kokusai_seminar.pdf
	1			
	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) DVD『赤とんぼがいない秋』制作</p> <p>(活動内容) 近年の赤トンボの減少について様々な映像証言を積み重ね、その原因と言われるネオニコチノイド系農薬の問題点を描いたDVD『赤とんぼがいない秋』を制作。上映会も積極的に実施</p>		DVD「赤とんぼがいない秋」	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/akatonbo-dvd.pdf
	<p>2011年度 助成先:ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) 「危機にあるミツバチの世界セッション」土と平和の祭典ステージ (2011年10月16日 日比谷公園)</p> <p>(活動内容) ネオニコチノイド系農薬の問題をについて、養蜂の現場から警告するセッションが行われました。小さな生き物たちの共生の和・循環の輪の破壊と健康被害への現状について、藤原誠太(藤原養蜂場長)、久志富士男(養蜂家)、富山一子(養蜂家)が報告。</p>	3	ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワークHP	http://no-neonico.jp/dvd_index/

2011年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の使用中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) 「松枯れ防止の農薬空中散布の中止を求める院内集会」</p> <p>(活動内容) 4 講演内容 ・「松くい虫防除の農薬空中散布は本当に必要か」中下裕子(ネオニコネット事務局 長ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議事務局 長) ・「生態系の構造と人為的干渉の影響」青木淳一(横浜国立大学名誉教授) ・「植物生態学から見た松枯れの位置づけ」林一六(筑波大学名誉教授) ・「農薬口中散布による人体被害」田口操(長野県在住者) (2011年11月30日 衆議院第2議員会館/東京)</p>	ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワークHP	http://no-neonico.jp/dvd_index/
2012年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコネット広報活動</p> <p>(活動内容) 5 ミツバチの大量死とネオニコチノイド系農薬の関与を証言する科学者や養蜂業者の様々な声を収めたDVD『ニコチンビー』を翻訳字幕をつけ上映権付きで販売。ミツバチの大量死問題を追及したドキュメンタリーDVD「ミツバチからのメッセージ」、「赤とんぼのいない秋」とともに上映会を日本各地で開催。一万人規模の波及効果があった。 イベント出展としては、ファームエイド銀座と土と平和の祭典に出展し、リーフレット配布、DVD販売、関連書籍の販売を実施。</p>	<p>1 映画「ニコチンビー」について(上映会 募集/DVD販売案内)</p> <p>2 『ニコチンビー』についてのチラシ</p> <p>3 「ミツバチからのメッセージ」DVD販売案内</p> <p>4 ネオニコネットの活動紹介とネオニコ問題のチラシ</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://no-neonico.jp/2013/041/</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neonicokoho_2.pdf</p> <p>http://no-neonico.jp/dvd_index/</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neonicokoho_3.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neonicokoho.pdf</p>
	<p>助成先:子どものアレルギーから食と環境を考える NPO みれっと</p> <p>(企画名) ネオニコチノイドは蜜蜂だけの問題じゃない</p> <p>(活動内容) 6 子育て中の親たちに、食品や家庭用品などを通じ日常的にネオニコチノイド系農薬にさらされているという現状に気づいてもらうため、リーフレット『子どもの脳を守って！大人が知らないところのこと』を作成。DVD「ミツバチからのメッセージ」や「ニコチンビー」の上映会とともに配布し啓蒙・広報活動を実施。</p>	<p>1 角田和彦医師による「ネオニコチノイド農薬への提言」とアンケート</p> <p>2 リーフレット「子どもの脳を守って！大人が知らないところのこと」</p> <p>3 「ミツバチからのメッセージ」解説書</p> <p>4 「ニコチン・ビー」解説書</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_1.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_2.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_3.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet_4.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_millet.pdf</p>

2012年度	7	助成先:後藤純子 (企画名) ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト (活動内容) 養蜂家としてミツバチを見つめ続けた作者が、穏やかなミツバチの暮らしとともにミツバチの大量死という悲しい現実を描いた絵本『だれもしらないみつばちのものがたり』を制作。読み聞かせという形で普及活動を実施。	1	『だれもしらないみつばちのものがたり』Kindle電子書籍(日本語版)	http://www.amazon.co.jp/%E3%81%A0%E3%82%8C%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%89%E3%81%AA%E3%81%84%E3%81%BF%E3%81%A4%E3%81%B0%E3%81%A1%E3%81%AE%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%8C%E3%81%9F%E3%82%8A-Junko-Gotoh-ebook/dp/B00RFXPN5M
		2	『A TALE OF A QUEEN BEE』Kindle電子書籍(英語版)	http://www.amazon.co.jp/TALE-QUEEN-BEE-English-ebook/dp/B00RFZNVNG/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1433552441&sr=8-1&keywords=A+TALE+OF+A+QUEEN+BEE	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_hogun.pdf	
8	助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク (企画名) ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進 (活動内容) 「生きもの」に焦点をあてた「生きもの認証システム」づくりに取り組む。認証システムの基礎基準の整備、帳票類作成などのシステム作りと、「生きもの認証システム」を使った具体的な認証プロジェクトを実施。	1	日本在来種みつばち協会「生きもの認証」基準	http://hp-a-00002.x0.com/5/topics/9	
		2	認証書式関係書類一式		
		3	生きもの調査・公開確認会報告書		
		4	リーフレット		
		5	みつばちの里の米認証袋		
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_neoniconinsyo.pdf	
9	助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク (企画名) ネオニコネット政策提言活動 (活動内容) ①国際会議「生態系と子どもたちを農薬から守るために～EUの農薬規制から学ぶ～」を開催。農薬問題、養蜂問題、化学物質規制問題に取り組むEUのNGO代表3名がEUでの農薬規制について報告。(2012年12月9日) ②1回目の院内集会で、無人ヘリコプターの農薬散布の問題及び、長野県での農薬空中散布問題について住民運動代表者を招き報告。(2012年11月20日) ③2回目の院内集会で、IPM(総合的害虫管理)に関する学習会を開催し、農薬に依存しない害虫管理の在り方について報告。(2013年3月25日) ④「持続可能な農業のための農薬管理・規制に関する提言書」を作成。農水省と環境省の担当部局、衆議院・参議院の農水委員会・環境委員会の国会議員などにも配布。	1	12月9日国際シンポジウム配布資料		
		2	11月20日院内集会配布資料		
		3	ニュースレターでの院内集会・国際市民セミナー報告記事	http://kokumin-kaigi.org/wp-content/uploads/2012/08/Newsletter078.pdf	
		4	持続可能な農業のための農薬管理・規制に向けた提言書	http://kokumin-kaigi.org/?p=1646	
		5	3月11日の斑点米学習会と3月25日の院内集会のニュースレター報告記事	http://kokumin-kaigi.org/wp-content/uploads/2013/08/Newsletter80.pdf	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_seisakuteigen.pdf	

2012年度	10	助成先:一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所 大石麻美 新潟大学大学院 自然科学研究科 堂谷紗希	1	「島の新聞」記事	
		(企画名) ネオニコチノイド系殺虫剤による水田生態系への影響評価	2	サドテレビ ニュース放送	
		(活動内容) ①クロチアニジンとジノテフランに着目し、処理水田と無農薬水田における食物網を構成する各生物の個体数と種多様度に及ぼす本剤の影響を評価。 ②水田生態系における生物濃縮の有無を明らかにするため、水田水と土壌、水生生物におけるクロチアニジン、ジノテフランの残留蓄積量を評価。 ③これらの解析結果を受けて、農業者、行政、および研究者を交え公開シンポジウムを開催。	3	abt 向け報告書	
			4	11/11 マス全体発表資料	
			5	合同セミナー一覧表	
			6	ネオニコアンケート報告書	
			7	3/16 シンポ発表資料	
			8	同ポスター	http://sado-ikimonoken.jp/sub/130316_neonico.h
2012年度	11	助成先:竹ノ内敏一		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_suideneikyo.pdf
		(企画名) ネオニコチノイド農薬空中散布におけるヒトの健康被害に関する調査			
2013年度	12	助成先:竹ノ内敏一	1	abt 向け報告書:「2013 年千曲市ネオニコチノイド系殺虫剤空中散布における大気・落下物分析, およびヒトの健康被害に関する調査報告書」	
		(企画名) 「空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査」	2	23 回臨床環境医学会学術大会講演予稿。「2013 年千曲市ネオニコチノイド系殺虫剤チアクロプリド空中散布における大気・落下物分析, および住民の健康アンケート調査結果」	http://health.env.kyoto-u.ac.jp/23-amisce-office/src/sc722/83v838d83o83898380.pdf
		(活動内容) 2013 年 6 月長野県千曲市において、松枯れ対策としてネオニコチノイド系殺虫剤チアクロプリドの有人ヘリコプターによる空中散布の殺虫剤の飛散(漂流飛散、ドリフト)調査と地域住民のアンケート調査を行った。	3	環境化学投稿論文(2014 年 5 月 7 日投稿済み):「長野県千曲市で行われた有人ヘリコプターによるチアクロプリド空中散布におけるドリフト調査」	
			4	報告会・講演会:2014 年 3 月 2 日千曲市総合観光会館「千曲市殺虫剤空中散布調査結果, 報告会と講演会」開催。報告:竹ノ内敏一, 講演:鎌田素之様、DVD 上映;御園孝様	
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_takenouchi_01.pdf

2013年度	13	助成先:神宮宇 寛	1	平成26年度農業農村工学会全国大会発表(2報、26年8月28-30日、新潟大学で開催)	
		(企画名) フィプロニルを成分とする苗箱施用殺虫剤のリスクを緩和する栽培方法の探索	2	平成26年度農業農村工学会東北支部大会発表(2報、26年10月28-30日、宮城大学で開催)	
		(活動内容) 野生生物への影響が大きいネオニコチノイド系やフェニルピラゾール系の浸透移行性殺虫剤は不使用が望ましいが、農業現場では多く使われている。現状の代替案として代替農薬とリスクを緩和する使用方法を提案するため以下2点を実施。	3	平成26年宮城県JAリーダー会議での成果発表(26年10月中旬を予定、宮城県)	
		1 トンボのヤゴに影響の少ない浸透移行性殺虫剤を明らかにする。 2 使用量を90%削減しながら害虫防除効果を維持する額縁栽培方法の効果を検証する。		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_jinguji_01.pdf
2013年度	14	助成先:米の検査規格の見直しを求める会	1	秋田県 農林水産部からの回答書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_komenokensa_03.pdf
		(企画名) 秋田県農林水産部への斑点米カメムシ類による経済的損失回避策の転換に係る要請	2	【速報】秋田県知事に脱ネオニコの要請書を提出しました	http://hantenmai.sakura.ne.jp/doc/140304_sakigake.pdf
		(活動内容) カメムシによる米の着色粒(いわゆる斑点米)の割合で米の等級が決まるという農産物検査制度のため、米農家はカメムシ防除対策のネオニコチノイド系農薬を使用せざるを得ないという現状の中、こうした制度を見直すべきとの意見書を秋田県農林水産部に提出。	3	秋田魁新報 2014年3月4日朝刊	http://hantenmai.sakura.ne.jp/news/n_140303-0.html
		(1) 過大な等級価格差の是正 (2) 農薬散布徹底の推奨をやめる (3) 農薬散布に頼らずに斑点米被害を回避する対策を促すなどの要請を実施。	4	朝日新聞 2014年3月4日朝刊	http://hantenmai.sakura.ne.jp/doc/140304_asahi.pdf
			5	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_komenokensa_01.pdf

2013年度	<p>助成先:ネオニコチノイド系農薬の中止を求めるネットワーク</p> <p>(企画名) ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進</p> <p>(活動内容) 2012年に引き続き、「生きもの」に焦点をあてた「生きもの認証システム」づくりに取り組む。認証システムの基礎基準の整備、帳票類作成などのシステム作りと、「生きもの認証システム」を使った具体的な認証プロジェクトを実施。</p>	15	<p>1 改定「生きもの認証基礎基準」「日本みつばち認証基準」申請書</p> <p>2 生きもの認証ロゴマーク</p> <p>3 茨城県内 3 地域の認証申請書</p> <p>4 公開確認会・対話集会開催資料(公開準備中)</p> <p>5 シンポジウムパンフ及び開催資料 7 月シンポジウム(概要&申込用紙)</p> <p>6 12月報告会みつばちの認証シンポジウム(概要&申込用紙)</p> <p>7 2月「子ども達の未来のために」環境シンポジウム報告書</p> <p>8 販売イベントの資料(公開準備中)</p> <p>9 茨城県外地域(福島県須賀川市)での資料</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://no-neonico.jp/wp-content/uploads/2014/08/20140215%E3%83%BB%E7%94%9F%E3%81%8D%E3%82%82%E3%81%AE%E8%AA%8D%E8%A8%BC%E7%AC%AC2%E7%89%88%FF%BC%89.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_03.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_04.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_05.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_06.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_neoniconet_01.pdf</p>
--------	---	----	---	---

2013年度	16	助成先:一般社団法人日本在来種みづばち協会	1	大子町生瀬地区、稲敷市釜井地区、笠間市上郷地区の空中散布状況図			
		(企画名) ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり	2	25年度空散有り無し圃場被害粒比較	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_03.pdf		
		(活動内容) 大規模な水田・里山エリアでの空中散布中止を実現していくことを目標とし地域全体で取り組む。近隣住民による田んぼの生きもの調査の実施など、非農家の地域住民や行政とともに安全な米作りができる地域づくりを実施。	3	田んぼの生きものワークショップ報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_04.pdf		
		①茨城県笠間市上郷地区、稲敷市釜井地区、大子町生瀬地区で農薬空中散布の実施状況を調査し、ネオニコチノイド空中散布中止に向けた会議を開催。	4	田んぼの生きものシンポジウムと「どんと焼き」報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_05.pdf		
		②笠間市上郷地区において150haという大規模な水田・里山エリアでの空中散布中止を地域全体で実現していくことを目標とし、ネオニコチノイド系農薬の空中散布を65件中、36件が中止。次年はさらに4件が中止予定。	5	「子ども達の未来のために」環境シンポジウム報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_06.pdf		
		③田んぼの生きものを指標にするために地域で生きもの調査の指導者育成、及び田んぼの生きものシンポジウムを開催。「どんと焼き」などの地域イベントで非農家の地域住民にも活動をPR。	6	上郷地域ネオニコフリー地域づくり報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_07.pdf		
		こうした活動が実を結び、行政の補助金を受けて色彩選別機を導入し玄米選別実施で1等米比率あげると言う事例をつくることが出来た。		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_mitsubachi_01.pdf		
	17	助成先:NPO 法人河北潟湖沼研究所	(企画名) 河北潟地域におけるラジコンヘリ散布を行わないエリアの拡大とカメムシ米のブランド化	(活動内容) ネオニコチノイド系農薬を使用しないエリアを作り、同時に生物多様性を保全するための取り組みとして、ネオニコチノイド系農薬のラジコンヘリによる空中散布をおこなわないことと、畦の除草剤散布をおこなわないことを条件とする「生きもの元気米」の栽培を進める。 「生きもの元気米」水田では生物調査を実施し、その結果を広く公開することで付加価値を付けることとした。こうした条件により2軒(2014年田植え時点で4件)の農家がそれぞれ1筆の2014年度の作付けをおこなうこととなった。	1	チラシ・注文用紙「蛙いっぱい田んぼを」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/ikimonogenkimaiorder.pdf
					2	パンフレット「ひろめよう！生きもの元気米」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/ikimonogenkimai.pdf
					3	クリアファイル「河北潟の田んぼを元気にするためには」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/ikimonogenkimai.pdf
					4	報告書「無農薬水田と慣行水田の生物相の比較調査結果及び生物多様性保全のための自主基準について」	
						最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_kahokugata_01.pdf

2013年度	18	助成先: 特定非営利活動法人 棚田LOVER's	1	11月16日収穫祭チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_03.pdf
		(企画名) ネオニコフリーを広げるための棚田を切り口とした学習会・食事会、フォーラム開催による人材育成、普及啓発事業	2	学習会のアンケート結果	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_04.pdf
		(活動内容) ・ネオニコチノイド系農薬の現状の理解度を把握するアンケート調査、学習会の実施 ・農村でのネオニコチノイド系農薬を使っていない食事会の開催 ・ネオニコフリーを広げるための農や食のことを学びあう学習交流会の開催 ・フォーラムの開催	3	3月1日: 講演会チラシ 2000部	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_05.pdf
		4	ネオニコフリー宣言文	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_06.pdf	
		5	みんなで考えた自分自身ができることシート	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_07.pdf	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_tanada_01.pdf	
		19	助成先: 一般社団法人生きもの認証推進協会	1	生きもの認証推進協会ホームページ
(企画名) 「生きもの認証システム基礎基準」における生きもの観察指導員(Bioアナリスト)養成、「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクト構築及びそれらの実績の公表	2		Bioアナリスト講座申込システム		
(活動内容) 「生きもの認証システム基礎基準」における生きもの観察指導員(Bioアナリスト)養成、「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクト構築、及びそれらの実績の公表	3		アグリイノベーション大学の特別講座パンフレット	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ikimono_03.pdf	
生きもの調査のスキルを体得し、環境保全型農業の現場を観察・分析して生物多様性を評価し、環境に配慮した農産物であるという評価を与える。そうしたユニークな農産物認証制度の実現に向けて、その担い手である「Bioアナリスト」を養成する講座を開催。ネオニコチノイド農薬はもちろん農薬全般を使用しない農作物作りを目指す。	4		Bioアナリスト養成講座募集チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ikimono_04.pdf	
・生きもの認証推進協会のHPの作成 ・「Bioアナリスト講座」の募集チラシ作成 ・同講座の講習会会場の選定、メールマガジン、ブログ配信等による参加者募集、企業のCSR部門への案内、営業等広報活動全般	5		オルタナWebマガジン及びyahooニュースに掲載「水田環境把握し、持続可能な農業へ——『Bioアナリスト』養成講座」『オルタナ』(2014/4/7)	http://alternas.jp/work/challengers/51323	
	最終報告書		http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ikimono_01.pdf		

2013年度	<p>助成先:後藤純子</p> <p>(企画名) ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト</p> <p>(活動内容) 2012年度同様、絵本『だれもしらないみつばちのものがたり』の読みきかせを実施。 絵本はamazonでの販売も開始。</p>	<p>1 『だれもしらないみつばちのものがたり』Kindle電子書籍(日本語版)</p> <p>2 『A TALE OF A QUEEN BEE』Kindle電子書籍(英語版)</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://www.amazon.co.jp/%E3%81%A0%E3%82%8C%E3%82%82%E3%81%97%E3%82%89%E3%81%AA%E3%81%84%E3%81%BF%E3%81%A4%E3%81%B0%E3%81%A1%E3%81%AE%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%8C%E3%81%9F%E3%82%8A-Junko-Gotoh-</p> <p>http://www.amazon.co.jp/TALE-QUEEN-BEE-English-ebook/dp/B00RFZNVNG/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=143352441&sr=8-1&keywords=A+TALE+OF+A+QUEEN+BEE</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_goto_01.pdf</p>
21	<p>助成先:国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン</p> <p>(企画名) ネオニコチノイド系農薬規制を実現するプロジェクト</p> <p>(活動内容) 持続可能な農業「人間(農業従事者、消費者)にも、生態系にもやさしい農業」が一般的となる社会を目指し、2016年までに2013年時点でのEUと同等のネオニコチノイド系農薬の規制を実現するための活動を2013年末から開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本格的な活動に向けて、消費者の行動や考えを理解するためのマーケットリサーチを実施。 ・キャンペーンキャラクターを作成しFacebookやウェブサイトを利用したキャンペーンの準備を行った。 ・生産者の有機農法との関わり方や、農薬に対する思いなどを集めた証言をビデオに記録、ウェブサイトで順次公開。 ・クロチアニジンの残留農薬基準緩和に関するパブリックコメントに対し、FacebookやTwitterでパブリックコメントを書いて提出するよう広く呼びかけた。1657件のパブコメが寄せられ、その99%が規制緩和に反対する内容となった。 ・パブコメ終了後も、グリーンピースのウェブサイトで緊急オンライン署名を開始(1月17日から2月13日)。約4週間で12,739筆もの署名が集まった。NGO4団体(ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、日本有機農業研究会、ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワーク、反農薬東京グループ、グリーンピース・ジャパン)で厚生労働省や農水省に署名を提出・申し入れを行う。 	<p>1 食に関する意識調査</p> <p>2 .bee my friend キャンペーンロゴマー</p> <p>3 生産者への聞き取り調査ビデオ</p> <p>4 緊急オンライン署名のウェブサイト</p> <p>5 ブリーフィングペーパー「EUで開始されたネオニコチノイド系農薬の規制に関して」</p> <p>6 クロチアニジンの残留基準の緩和の凍結とネオニコチノイド系農薬の毒性評価の見直しを求める要請書</p> <p>7 厚生労働省への申し入れ後などに報道された新聞記事 2013年11月～2014年3月まで合計記事57件</p>	<p>http://beeip.org/</p> <p>http://beeip.org/</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/nic</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/ja/library/publication/20131206/</p> <p>http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr20140203/</p>

2013年度		8	厚生労働省の作業部会の委員に農薬の資料を送付	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_gpj_01.pdf
22	助成先:NPO法人F.O.P (企画名) ミツバチからのメッセージ(ダンスミュージカル) (活動内容) 「だれもしらない みつばちのものがたり」ダンスミュージカル制作,映像化に向けて、台本づくり、出演者募集のチラシ、映像、楽曲制作を実施。	1	ミュージカル「A Tale of One Queen Bee」台本	
		2	楽曲 3 曲「オープニング」「乱舞」「求愛・結婚」	
		3	参加者募集用チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_fop_03.pdf
		4	参加者募集用映像	https://www.youtube.com/watch?v=wsrTYrVU4To&feature=youtu.be
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_fop_01.pdf
2014年度	助成先:Task Force on Systemic Pesticides/TFSP・WIA 東京実行委員会 (企画名) 浸透性農薬が生物多様性と生態系に及ぼす悪影響に関する「世界的な総合評価書」(WIA)の成果普及と議論喚起 (活動内容) 2014年6月26日午後、参議院員会館で「TFSPによるメディアと政策決定者のための『浸透性農薬世界的総合評価書(WIA)』研究成果発表会」を開催した。ネオニコチノイドについての研究成果を学術的見地から世界的規模で検証し、整理した研究成果であり、発表会では、ミツバチや蝶などへの影響だけでなく、人間への影響についても研究成果が開示された。	1	TFSP によるメディアと政策決定者のための「浸透性農薬世界的総合評価書(WIA)」研究成果発表会(プレスリリース)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_03.pdf
		2	WIA報道発表(日本語翻訳版)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_04.pdf
		3	WIAメディア説明会資料(日本語翻訳版)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_05.pdf
		4	浸透性農薬タスクフォースのビデオ説明(日本語翻訳版、成果物 8 に収録)	
		5	LORENZO FURLAN 氏の発表スライド(英語)	
		6	山田敏郎氏の発表スライド(英語版及び日本語版)	
		7	平久美子氏の発表スライド(英語版及び日本語版)	
		8	会議映像中継アーカイブ	http://www.actbeyondtrust.org/report/1936/

2014年度	23	9	参加者名簿	
		10	「ミツバチの大量死と日本人の未来 ネオニコチノイド系農薬に科学者たちが警鐘～IUCN/TFSP による『浸透性農薬世界総合評価書(WIA)』研究成果発表会」IWJ(2014.6.26)	http://iwj.co.jp/wj/open/archives/148695
		11	「ネオニコ系農薬はミツバチ減少の要因」——800の論文を基に国際的な科学者チームが発表(オルタナオンライン 2014.6.26)	http://www.alterna.co.jp/13216
		12	2.「IUCN が浸透性農薬に関する世界的な総合評価書を公開——グリーンピース、農薬が地球に及ぼす悪影響を証拠づける研究成果と歓迎」グリーンピース・ジャパン(2014.6.26)	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr201406261/
		13	「ネオニコチノイドなど浸透系農薬に関する研究発表:撮影記録」都市生活者の農力向上委員会(2014.6.27)	http://www.blog-headline.jp/agriability/2014/06/post_233.html
		14	「浸透性農薬の生態系への影響をまとめた評価書が発表されました。」日本自然保護協会『NACS-J 事務局日誌』(2014.6.27)	http://www.nacsj.or.jp/diary2/2014/06/post-490.html
		15	石井徹「行動しない国、日本」朝日新聞夕刊(2014.7.23)	
		16	「浸透性農薬の禁止を！研究者らが成果を発表」仏教新聞(2014.7.28)	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tfsp_01.pdf
			助成先:NPO 法人 河北潟湖沼研究所	
			(企画名) 生きもの元気米(生物多様性認証米)の取り組みによるネオニコチノイドフリーエリアの拡大	
			(活動内容) 2015年3月末の時点で取り組みへ参加表明する農家が5軒となり、生きもの元気米の栽培圃場の面積は90aから140aに拡大した。 生きもの元気米の販売では、積極的な直接販売も実施し合計1.5トンを3月末までに完売した。さらに2015年度米の早期予約も3月末で約750kg分があり、栽培面積の拡大を図ることになった。	
		1	冊子「ネオニコチノイド系農薬を使わない米づくりは可能か？ 生きもの元気米でつくる豊かな水田生態系」	http://kahokugata.sakura.ne.jp/publications/pamph.html
		2	論文「河北潟周辺の圃場におけるラジコンヘリによる農薬の一斉空中散布前後での陸生無脊椎動物群集の比較」河北潟総合研究 18 巻(印刷中成果物 1 に収録)	http://kahokugata.sakura.ne.jp/publications/pamph.html
		3	日本自然保護大賞授賞式・活動発表会パンフレット「保護実践部門 生きもの元気米を生み、生物多様性保全の道標となった河北潟レッドデータブック」	http://www.nacsj.or.jp/katsudo/award/2015/02/38.html#01

2014年度	24	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性アクション大賞2015において、生きもの元気米がえらぼう部門の優秀賞を受賞。 ・生きもの元気米を含む河北潟地域での保全活動が日本自然保護大賞保護実践部門を受賞。 ・12月11～13日に開催されたエコプロダクツ展において、ネオニコチノイド系農薬の問題点と生きもの元気米の取り組みをアピールした。 ・ネオニコチノイド系農薬の問題、生きもの元気米の取り組み、河北潟での圃場の生物調査の結果等をまとめた冊子「ネオニコチノイド系農薬を使わない米づくりは可能か？ 生きもの元気米でつくる豊かな水田生態系」(B5版 28ページ)を1200冊作成した。 ・水野玲子さんを招いてのシンポジウム開催 	4	生物多様性アクション大賞 2015「えらぼう部門 生きもの元気米」	https://5actions.jp/award2014/result.html		
			5	「河北潟米をブランド化 農薬を制限『生きもの元気米』」北國新聞(2014.4.24)			
			6	「『生きもの元気米』初出荷 津幡のNPO、農薬制限」北國新聞(2014.9.19)			
			7	「河北潟の保護で大賞」北陸中日新聞(2015.2.3)			
			8	「津幡のNPOに自然保護大賞」読売新聞(2015.2.3)			
			9	「自然保護大賞に河北潟湖沼研究所」北國新聞(2015.2.3)			
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_kahokugata_01.pdf		
			25	<p>助成先:NPO法人 F.O.P</p> <p>(企画名) ミツバチからのメッセージ</p> <p>(活動内容) みつばちの大量死を描いた物語「だれもしらないみつばちのものがたり」(著者 後藤純子さん)を原作としたダンスミュージカルの制作を行なった。多くの人に知ってもらうことが必要と考え、「ダンス」という切り口で若者を中心に参加の呼びかけを行なった。参加者は、地元のダンススクールに通う子供から社会人、ダンス未経験者、計61名が出演。参加アーティストは、伊那谷で活動しているミュージシャン20名。公演日は、みつばちマーケット、ネオニコチノイドについての展示設営を行なった。来場者は計600名で二部とも満席。新聞一面記事となり、再演の依頼も頂き、まずは多くの方に知ってもらうという目標の第一歩を踏み出した。今後ダンスミュージカル制作の様子、当日の舞台を映像化する予定。</p>	1	養蜂家への聞き取り調査まとめ	
					2	学習会向け資料	
					3	学習会、ワークショップ、練習過程の様子を伝える映像作品の制作	
4	募集チラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_03.pdf					
5	ダンスキャンプチラシ	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_04.pdf					
6	公演チラシ・ポスター	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_05.pdf					
7	当日パンフレット	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_06.pdf					
8	「『ミツバチ』テーマの舞台公演 陣馬形山でロケ撮影」長野日報(2014.9.29)	http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=32408					
9	「ミツバチの生態伝える ロケ完了」南信州新聞(2014.9.30)						
10	「中川で来月8日『ミツバチ』ミュージカル」長野日報(2015.2.19)	http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=33517					

2014年度		11	「ミツバチ大量死テーマにミュージカル人の暮らし演劇で問う」朝日新聞長野版(2015.3.3)	http://www.asahi.com/articles/ASH334H75H33UO0B00F.html
		12	「『命のつながり』ミツバチ熱演」長野日報(2015.3.10)	http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=33659
		13	「いのちのつながり伝える ダンスミュージカル舞台公演」南信州新聞(2015.3.10)	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_fop_01.pdf
26	助成先:尾崎幸仁 (企画名) ミツバチの持ち帰る花粉荷中の含有農薬検査 (活動内容) ミツバチの持ち帰る花粉荷を採取し、花粉荷中の残留ネオニコチノイド系農薬の分析を行なったが、花粉荷中からは農薬は検出されなかった。都市部(大阪府立園芸高校・尼崎工業団地)、農村部(兵庫県小野市依養蜂場・大阪府箕面市土々呂美)共に、採取ミツバチ花粉荷10検体からはネオニコ系農薬は検出されず、ミツバチ利用植物花粉の汚染状況(汚染植物の所在地を地図化する)という目的は達成できなかった。農薬が検出されなかった要因の一つに、イネの開花期に計画通りに花粉採取分析が行なえなかったことが挙げられる。	1	残留検査分析結果報告書 最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ozaki_01.pdf
	2014年度 助成先:国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン (企画名) ネオニコチノイド系農薬規制を実現するプロジェクト【bee my friend】 (活動内容) 持続可能な農業「人間(農業従事者、消費者)にも、生態系にもやさしい農業」が一般的となる社会を目指し、2016年までに2013年時点でのEUと同等のネオニコチノイド系農薬の規制を実現するための活動を2013年末から開始した。 ・厚生労働省がネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの規制緩和を検討し始めた事から、緊急オンライン署名を開始。約4週間で12,739筆もの署名が集まり、再審議となった。 ・、専用のウェブサイト(http://beejp.org/)を開設。 ・ネオニコチノイド現状を広く伝えるためにわかりやすくまとめたリーフレットを作成。1年間で8万部を配布した。 ・パブリックキャンペーンでは、キャンペーンへの参加人数が目標の3万人を大幅に超えて 35,362 人以上にのぼった。	1	レポート「消えるハチ」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr20140418/
		2	レポート「したたる毒」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/news/press/2014/pr20140604/
		3	レポート「花と毒薬」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/library/publication/20150212toxic-eden/
		4	レポート「PLAN BEE 無農薬の生活」	http://www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/plan-bee-jp.pdf
		5	リーフレット「みつばちをまもること＝畑とごはんをまもること」	http://www.greenpeace.org/japan/ja/library/publication/20140410bee-leaflet/
		6	FB グループ「bee my friend」の参加をを求めるシール	

2014年度	27	<p>・再審議となっていたネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの規制緩和に対し、第二回署名を開始。9,235 筆を農水省に提出した。</p>	7	新聞広告を朝日新聞、読売新聞に掲載(2014.8.8)	
			8	インフォグラフ	
			9	都道府県アンケート調査・意識調査の報告書	http://www.greenpeace.org/japan/eco/label/
			10	「市民の声が厚労省を動かした」週刊エコノミスト(2014.4.29)	
			11	「ミツバチ大量死?の農薬、残留基準緩和へ 厚労省」朝日新聞(2014.12.25)	http://www.asahi.com/articles/ASGD54HCLGDSULBJ00D.html
			12	「ミツバチ大量死」との関連が疑われる農薬に、世界中で規制の動き。日本は逆行」Harbor Business Online(2014.12.31)	http://hbol.jp/17431
			13	「農産物『有機・農薬不使用』マーク、13 都県でグリーンピース調べ」オルタナオンライン(2015.2.9)	http://www.alterna.co.jp/14538
			14	「ネオニコ農薬食品基準 公募意見『99%緩和反対』なのに 厚生省、無視?さらに緩和案」東京新聞(2015.2.10)	
			15	「農産物の『特別栽培』表示では農薬使用の危険度はわからない」Harbor Business Online(2015.2.16)	http://hbol.jp/25561
			16	「ネオニコ系農薬の食品残留基準緩和案で再度パブコメ 21 日締切」オルタナオンライン(2015.2.20)	http://www.alterna.co.jp/14591
			17	「ネオニコチノイド系農薬 予防原則に立つ規制を」佐賀新聞(2015.2.20)	
			18	「ネオニコ農薬基準緩和見直しが一転 さらに 16 作物の基準緩む」日本消費経済新聞(2015.2.25)	
			19	「『ネオニコチノイド規制緩和反対』署名 9235 筆を農水省に提出」オルタナオンライン(2015.3.20)	http://www.alterna.co.jp/14763
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_gpj_01.pdf

2014年度	28	助成先:ネオニコチノイド研究会 (企画名) Worldwide Integrated Assessment on Systemic Pesticides の日本語版作成 (活動内容) Worldwide Integrated Assessment on systemic pesticides の日本語版作成し、PDF ファイルにて公開。	1	Worldwide Integrated Assessment on systemic pesticides の日本語版 PDF ファイル	http://www.actbeyondtrust.org/report/1928/
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_wia_01.pdf

脱原発プロジェクト

	助成先/企画名/活動内容		成果物
2011年度	<p>助成先:グリーン・アクション</p> <p>(企画名) 「脱原発」ネットワーキング・プロジェクト</p> <p>(活動内容) 脱原発を実現するために経済学者、若年層、反原発・温暖化・消費者問題などに取り組むNGO、マスコミ・ライター・評論家、国会議員、アーティスト、そして海外の情報提供者といった人々の活動を繋げ、そのコーディネートに取り組む。また、再稼働、エネルギー転換など個々の問題にも取り組む。</p> <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ■福島での放射線モニタリング支援 ■英文ブログFUKUSHIMA UPDATE配信。 ■文科省の学校20mSv基準問題などに対する取り組み ■NY市国連前で脱原発アピール支援、再稼働問題全国討論会、エネルギーシフト院内学習会共催 ■経産省前「私たちの座り込み」連帯、報告書「放射能は女性にとってより有害である」など ■国際キャンペーン団体Avaazによる署名12万人分代理提出、「脱原発を目指す女達の会」呼びかけ、国連人権高等弁務官事務所調査団派遣要請など ■脱原発世界会議の海外コーディネート、大飯原発3・4号機問題で関西の啓蒙活動強化など ■六ヶ所アクティブ試験と大飯原発再稼働に関する総理大臣への質問要望書提出、原子力発電所に対する欧州「ストレステスト」評価報告書翻訳・公開など ■エネルギー転換に向けた議員セミナー開催、再稼働問題政府交渉 		
	<p>助成先:国際環境 NGO FoE Japan</p> <p>(企画名) 子どもたちの被ばくの最小化に向けた「避難の権利」の確立</p> <p>(活動内容) 日本政府が定めた計画的避難区域の外に住んでいる人たちであっても、自らや子どもたちの被ばくリスクを知り、判断し、自主避難をすることができるように、自主避難のための補償やその他の行政サポートを受ける権利(=避難の権利)を確立する。このため、政府交渉や社会ムーブメントづくりを実施。</p> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ■福島現地での集会や政府交渉を進め、「選択的避難区域」「サテライト疎開」を提唱、自主的避難者へのアンケート、避難の権利訴訟準備に向けて弁護士と協議など。 ■ブログ開設、内部被曝問題追求、福島市渡利地区線量調査・土壌汚染調査、渡利での連続勉強会など ■子ども・妊婦の避難に予算措置を求める政府交渉、渡利地区の子どもを守る署名開始など ■自主避難に正当な賠償を求める署名提出 	<p>「避難の権利」確立のために自主的避難の賠償問題と避難問題の最前線 ～福島市渡利地区の今～</p>	<p>http://www.foejapan.org/climate/library/book_hinankenri201203.pdf.pdf</p>

2012年度	<p>助成先:グリーン・アクション</p> <p>(企画名) 「脱原発」ネットワーキング・プロジェクト Year2</p> <p>(活動内容)</p> <p>■美浜の会と連携し大飯原発敷地内の断層について再調査するよう活動。原子力安全・保安院が関電に調査指示を出すところまで持ち込む。</p> <p>■市民グループと共に原子力防災計画の問題に取り組む</p> <p>■国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)に働きかけ、国連人権理事会特別報告者の視察団が来日。日本政府の福島の子どもの人権に関する取り組みに対して厳しく批判する中間報告が出た。</p> <p>■IPPNW 主催の「福島の原発事故と人々の健康 ～教訓と課題」(8月27日)などの企画に係わり、IAEA など原発推進の機関や研究者の主張の反論が行われるよう、また海外の団体と国内の専門家による日本政府と福島県の低量線被曝に対する対策の検証・批評が進むよう協力した。</p> <p>■e-shift 中の市民グループと連携し、電力会社の電力不足と燃料費用コスト上昇キャンペーンに対する反論、運転再開はしなくていいという経済・政治・政策面での分析、利益相反問題も含め、原子力安全行政のあり方の批評を促し、マスコミなどに宣伝した。</p> <p>■脱原発世界会議2のセッション「We are the change 未来は一人ひとりから」をグリーン・アクションのスタッフとグリーン・アクションのユースで担当した。</p>	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_networking.pdf
3	<p>助成先:国際環境 NGO FoE Japan</p> <p>(企画名) 東京電力福島第一原発事故に伴う子どもたちの被ばく最小化および「避難の権利」を確立するための活動</p> <p>(活動内容)</p> <p>子どもたちの被ばく低減のための避難・保養の促進、避難者が正当な賠償を取得し、避難先での生活再建を可能とさせるための政策構築、避難地域の安易な解除や住民の呼び戻しに警鐘を発するなどの活動を行った。</p> <p>■「福島ぽかぽかプロジェクト」の実施 福島の子どもたちを、土湯峠温泉など近隣の線量が低い地域で保養してもらうプロジェクトを実施。土湯・土湯峠温泉を中心にのべ 2,900 人を超える親子が参加した(2012年1月～2013年3月)。</p> <p>■原発事故子ども・被災者支援法の成立 与野党の国会議員に対するインプットを行い、SAFLAN、フクロウの会等と連携し、原発被害者救済のための立法措置などを求める署名運動を行った。また、チェルノブイリ法の立役者であるアレクサンドル・ヴェリキン氏を招聘し、チェルノブイリ法のポイントと課題につき、国会議員や市民の認識を深めた。 この結果、6月21日「正式名称:東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律」(原発事故子ども・被災者支援法)が成立した。</p>	<p>1 1. A・ヴェリキン氏講演会「チェルノブイリ法への道のり～その成果と課題」開催報告(2012年5月)</p> <p>2 「医療費の減免措置の拡大を求める要請」(2012年5月)</p> <p>3 原発被災者のいのちと暮らしを守る法律の早期成立を求める署名(2012年6月)</p> <p>4 「原発事故子ども・被災者支援法市民会議」趣意書</p> <p>5 「ぽかぽかプロジェクト・サマーキャンプ in 南房総」報告書</p> <p>6 調査報告「高濃度汚染続く渡利・大波一避難と除染の政策見直しを」(2012年11月)</p> <p>7 「原発事故子ども・被災者支援法」基本方針に関する要望書(2012年11月)</p> <p>8 借り上げ住宅制度打ち切り問題に関する要望書(2012年12月)</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://www.foejapan.org/energy/news/120523.html</p> <p>http://www.foejapan.org/energy/news/pdf/120527.pdf</p> <p>http://www.foejapan.org/energy/action/120406.html</p> <p>http://shiminkaigi.jimdo.com/%E5%B8%82%E6%B0%91%E4%BC%9A%E8%AD%B0%E3%81%A8%E3%81%AF/#shui</p> <p>http://www.foejapan.org/energy/evt/120903.html</p> <p>http://www.foejapan.org/energy/news/121118.html</p> <p>http://www.foejapan.org/energy/news/pdf/121128_2.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/tenpu8_121210</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_hinan.pdf</p>

2013年度	<p>助成先:グリーン・アクション</p> <p>(企画名) 「脱原発」ネットワーキング・プロジェクト Year 3</p> <p>(活動内容) 全ての原発を停止状態のまま継続させること、特に最初の再稼働となる可能性が高かった大飯原発 3・4 号機の運転再開を阻止できるかどうか集中しました。また川内原発等運転再開が予想される各地の原発阻止運動にも努力しました。</p> <p>■ 原発敷地内とその付近の活断層の存在、新規基準による原発審査の技術的な問題点を指摘することにより原発再稼働を止める。 2012 年に原発敷地内での活断層の存在について指摘したのにつき、断層三連動を元に地震動の評価が行われるべきと主張することで、原子力規制委員会の適合審査の中で、大飯原発耐震工事が必要になりました。そのため、大飯原発の審査終了は 2014 年度終了まで延びることになり、大きな成果となりました。</p> <p>■ 大飯原発防災計画の避難元と避難先になる自治体の防災計画策定状況を調査したことで、計画の未完成・不備が次々に明らかになり、国会でも取り上げられた。</p> <p>■ 外国の専門家の講演会や勉強会の設定、Facebook や YouTube を活用した情報発信を開始しました。海外向けの活動を強化するための人材育成、運営ノウハウの蓄積を進め、原子力市民委員会、脱原発をめざす首長会議、e-shiftなど国内団体と海外の専門家などとの議論を深め、活動の輪を広げるための下地が出来た。</p>	<p>1 A call to action towards nuclear safety - everyone has a voice Aileen Mioko Smith TEDxKyoto</p> <p>2 Japanese citizens sue, saying "No!" to restart of nuclear power in</p> <p>3 Japanese citizens sue, saying "No!" to restart of nuclear power in</p> <p>4 原発の避難計画 知っていますか?</p> <p>5 「現在も続く福島第一原発の危機 The Ongoing Fukushima Daiichi Crisis: Ongoing Radioactive Discharges and Other Current Issues」(2014 年 9 月 24 日)記者会見コーディネーター グレゴリー・ヤツコ(元米国合衆国原子力規制委員会 NRC 委員長)、トーガン・ジョンソン(住宅・都市計画建築家、サンディエゴフォーラム市民側代表)、筒井哲郎(原子力市民委員会)</p> <p>6 「プルトニウム分離のセキュリティと経済への影響 Security and Economic Implications of Plutonium Separation」(2014 年 5 月 23 日)記者会見コーディネーター フランク・フォンヒッペル(プリンストン大学 教授)、マイケル・シュナイダー(マイケル・シュナイダー・コンサルティング)、田窪 雅文(ウェブサイト「核情報」主宰)</p> <p>7 「原子力防災計画」市民の活動</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=Fa1Os5o5xU4&feature=youtu.be</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=Fa1Os5o5xU4&feature=youtu.be</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=2IMPtEID7i-U&feature=youtu.be</p> <p>http://www.greenaction-japan.org/internal/140220_plan_refug_leaf.pdf</p> <p>http://bousaikeikaku.blogspot.jp/</p>
5			

2013年度		8 日本の反原発市民運動が、原子力に止めを刺し国のエネルギー政策転換を実現させる可能性について一この課題を達成するために私たちが引き受けなければならないことは何か(要旨:日本語)	http://www.greenaction-japan.org/internal/131208_Hosei_Intl_Symposium-jp.pdf
		Presentation given by Aileen Mioko Smith, Executive Director, Green Action (Japan), at the International Symposium: "Energy Policy Shift and the Creation of Public Spheres: Learning From Germany's Experience" (8 December 2013, Hosei University, Japan)(要旨と全文:英語)	http://www.greenaction-japan.org/internal/131208_Hosei_Intl_Symposium-en.pdf
		9 震災学寄稿「水俣・スリーマイル・福島」	http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/research/journal/shinsaigaku/03.html
		10 NIRS's Fukushima telebriefing March 6,2014 featuring	http://www.nirs.org/fukushima/fukushima-telebriefing3614.mp3
		11 京都の原発防災ってどうなってるの？	https://www.youtube.com/watch?v=O0Hc8cW2nH4&feature=youtu.be
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ga_01.pdf
	<p>助成先:国際環境 NGO FoE Japan</p> <p>(企画名) 東京電力福島第一原発事故による放射線被ばく低減施策の促進および健康管理体制への提言</p> <p>(活動内容) 原発事故被害者、とりわけ子どもたちの放射性被ばくの提言や健康管理体制の構築のために多くの活動を行った。</p> <p>■市民団体や地元の医師・ボランティアの協力のもと、猪苗代および南房総で、福島の子どもの自然体験型保養である「福島ぼかぼかプロジェクト」を継続的に実施。</p> <p>■子ども・被災者支援法が具体的に機能するよう、基本方針の策定時に東京・京都・新潟・福島で集会やワークショップを開催し、被災当事者の声を復興庁に伝え、それを可視化し世論形成に努めた。</p> <p>■「放射線被ばくと住民の健康管理のあり方に関する市民・専門家委員会」を立ち上げ、環境省・復興庁との交渉、福島県健康管理課とのダイアログを行った。</p>	1 福島ぼかぼかプロジェクト 2013 年度報告書 2 【共同声明】被災者の声なきままの基本方針案は手続き違反/既存施策の寄せ集めはもうたくさん 3 【緊急署名】子ども・被災者支援法の基本方針案の見直しを！ 4 原発事故子ども・被災者支援法 9・8 東京集会 5 原発事故子ども・被災者支援法 9・9 京都集会 6 福島学習会 (9月10日) 7 Q&A 何が問題？ 子ども・被災者支援法の基本方針案 8 報告 政府交渉:「子ども・被災者支援法」を骨ぬきにしないで！復興庁基本方針案パブコメ対応、公聴会、支援対象地域、住宅支援と健康対応はどうなる？	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_foe_03.pdf http://www.foejapan.org/energy/news/130830_2.html http://www.foejapan.org/energy/action/130902.html http://www.foejapan.org/energy/evt/130908.html http://www.foejapan.org/energy/evt/130909.html http://www.foejapan.org/energy/evt/130910.html http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2013/09/post-ae5a.html http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2013/10/post-2ed5.html

2013年度	6		9 原発事故子ども・被災者支援法の基本方針案についての要請	https://dl.dropboxusercontent.com/u/23151586/130930_shienho_yousei.pdf	
			10 支援法基本方針 自治体意見書・決議などのまとめ	http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2013/10/post-cf24.html	
			11 プレスリリース「パブコメ無視の「(修正)基本方針」は遺憾～明日の閣議決定へ抗議！被災者の意見を反映した本質的修正を～」	http://www.foejapan.org/energy/news/131010.html	
			12 「放射線被ばくと健康に関する市民・専門家委員会」報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_foe_04.pdf	
			13 公開フォーラム「子どもたちの未来のために 健康被害の未然防止と支援法の早期実施を求め、1mSvを守ろう」(2013/5/5)	http://www.foejapan.org/energy/evt/130505.html	
			14 ミニセミナー「被ばく安全神話を問う～科学の視点、市民の視点」(2013/5/26)	http://www.foejapan.org/energy/evt/130526.html	
			15 「福島県県民健康管理調査」に関する市民ダイアログ会合(報告)	http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2013/07/post-ae90.html	
			16 「福島第一原発事故に起因する放射線被ばくと健康管理のあり方に関する省庁との会合―質問と回答」	http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2013/06/post-79da.html	
			17 国連科学委員会報告書に、日本のNGOが「異議あり」(2013/10/25)	http://www.foejapan.org/energy/news/131025.html	
			18 国連科学委員会 (UNSCEAR) 福島レポートをどう読むか～IPPNWの共同代表・ティルマン・ラフ博士を迎えて	http://www.foejapan.org/energy/evt/131106.html	
			19 【緊急声明】安全神話の押し付けに懸念：政府発表の「帰還に向けた放射線リスクコミュニケーション」と「放線リスクに対する基礎的情報」に問題提起(2014/01/19)	http://www.foejapan.org/energy/news/140219.html	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_foe_01.pdf	
		7	助成先:放射能汚染地域のチョウにおける遺伝子損傷部位を特定するためのゲノム解読	1 ゲノム抽出用ヤマトシジミ採集(研究過程)	
			(企画名) 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系大瀧研究室	2 採卵・飼育後のゲノム DNA 抽出(研究過程)	
			(活動内容)	3 ライブラリ作製とシーケンシング(研究過程)	
			ヤマトシジミという小型のチョウを用いて福島第一原子力発電所事故による放射能汚染地域にすむ生物に対する生物学的影響をゲノムレベルで調べることを目標とする。2013年度は、ゲノムの抽出に成功し、第一段階のドラフト配列が得られた。この成果は2014年度の研究に引き継がれ、更なるゲノム解析の後、最終的な研究論文という形で発表される。	4 ゲノム出力データ解析(研究過程)	
				5 解析レポート(研究途上)	
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_ryudai_01.pdf

2014年度	8	<p>助成先:国際環境 NGO FoE Japan</p> <p>(企画名) 原発輸出に反対する国際キャンペーンの実施</p> <p>(活動内容) 原発輸出をめぐる 2015 年度の日本国内のもっとも大きな出来事は、①トルコ・UAE との原子力協定の国会承認、②CSC条約(原子力損害の補完的補償に関する条約)の国会承認であろう。いずれも、国会議員・一般市民・メディアに対して、集中的なキャンペーンを行い、原発輸出の問題を訴えた。</p>	1	トルコ・シノップ原発建設計画と市民運動	
		2	原発輸出～何が問題か?(ファクトシート)		
		3	トルコの市民団体から国会議員に当てた手紙	http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2014/04/post-3e84.html	
		4	トルコ・UAE との原子力協定参議院審議。参考人質疑報告	http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/2014/04/uae-c4a9.html	
		5	【声明】トルコ・UAE との原子力協定の国会承認に抗議～原発に依存しない国際社会の実現への支援を	http://www.foejapan.org/energy/news/pdf/140418.pdf	
		6	【緊急署名】原発輸出を推進し、メーカーを免責する「原子力損害の補完的補償に関する条約(CSC)」に反対を	http://www.foejapan.org/energy/news/140924.html	
		7	【抗議声明】原発メーカーを免責し、原発輸出を促進する「原子力損害の補完的補償に関する条約」(CSC)の衆議院での採択に抗議	http://www.foejapan.org/energy/news/141113.html	
		8	CSC 条約に関しての抗議声明(英文)Declaration to protest The Japanese Diet's over-hasty approval of the "Convention on Supplementary Compensation for Nuclear Damage" (CSC), which heavily protects	http://www.foejapan.org/en/energy/pdf/protest_CSC.pdf	
		9	脱原発でつながる日本と世界～福島原発事故 4 年目を迎えて～ 宣言文など	http://www.foejapan.org/energy/news/150310.html	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_foe_01.pdf	
			助成先:グリーン・アクション		
			(企画名) 「原発ゼロ」を本当に実現するためのキャンペーン		
			(活動内容) 今年の活動は、2013年9月15日時点で停止状態にある全ての原発をこのまま止めておくことが最優先課題だった。理由は再稼働のスタートとなる可能性が高い川内原発 1・2号機と高浜原発 3・4号機の運転再開を阻止できるかどうか、他の原発のメルクマールとなるため。これら2箇所の原発阻止に関わる各地の運動を相互に繋げることに努力した。		
			1	関西電力を相手の大飯原発仮処分裁判判決後に抗議・報告会を開催(5月9日)	
			2	政府交渉(東京) [共催] 原子力防災、火山問題(川内原発)、汚染水問題、電力会社の運転再開審査について(5月20日)	
	3	政府交渉 [共催] 「川内原発審査・重大事故対策について」(7月28日)			

2014年度	<p>活動のポイントは以下の3点。</p> <p>①原発敷地内とその付近の活断層の存在、火山問題の指摘、そして新規制基準による原発審査の技術的な問題点を指摘する。</p> <p>②防災計画不備の指摘。</p> <p>③多くの外国のメディアと専門家に対し日本の状況を知らせ、海外の専門家などの意見を日本に伝えるというグリーン・アクションの強みを生かした活動。</p>	4 政府交渉[共催]「川内原発審査・火山審査について」(7月29日)	
		5 川内原発の再稼働を止めよう！学習・交流会（大阪）[共催]（8月3日）	
		6 関西広域連合へ原子力災害の広域避難等に関する質問・要望書提出[共催]（8月5日）	
		7 舞鶴市宛て原発事故時の避難計画に関する質問・要望書提出（8月11日）	
		8 政府交渉（参議院議員会館）原発の避難問題について[共催]（8月21日）	
		9 福井県知事宛：原子力防災訓練・避難計画等に関する質問・要望書を提出[共催]（8月29日）	
		10 政府交渉 川内原発・避難計画／火山・地震審査に関して[共催]（10月24日）	
		11 高浜原発審査及び川内原発火山審査について院内集会と規制庁と政府交渉（参議院議員会館）[共催]（1月13日）	
		12 高浜原発汚染水問題などについて政府（規制庁）交渉（参議院議員会館）[共催]（3月12日）	
		13 原発輸出問題に関する質問を政府に提出・回答を得る[共催] 同問題で記者会見 その後、日立本社の前で抗議行動[FoE Japan など]（3月19日）	
		14 原子力災害防災対策指針改定に関する政府宛質問書提出 [FoE Japan など]（3月27日）	
		15 ドイツ大使館クリスティーネ・ワシレフ参事官講演会(ドイツの避難計画など)(4月23日)	
		16 「原発ゼロ」で経済再生(金子勝)(8月29日)	
		17 KYOTO GRAPHIE「エネルギー：私たちの環境と未来」(5月10日)	http://www.kyotographie.jp/2014/programs/513.htm
		18 Wuppertal Institute で講演会「Phaseing Out Nuclear Power in Japan.」(10月13日)	

19	The Nuclear-Free Future Award (10月14日～)動画	http://www.nuclear-free-future.com/en/award-presentation/laureates/aileen-mioko-smith/
20	Nuclear accident evacuation planning in central Japan	https://www.youtube.com/watch?v=ONYUjydGQIM&feature=youtu.be
21	Will Japan's Nuclear Regulator Approve Plans to Restart Reactors Near Super Volcanoes?	https://www.youtube.com/watch?v=L-KzJUbpq5E&feature=youtu.be
22	関西電力の電気料金値上げの申請についてパート1	https://www.youtube.com/watch?v=DFX7RsNAfNY&feature=youtu.be
23	外部勉強会(サロン)開催(京都大学 6月28日、8月19日)	
24	福井県原子力防災総合訓練・監視行動報告	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ga_03.pdf
25	「避難所が危険区域にあるか」のアンケート回答集計	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ga_04.pdf
26	共同で避難計画に関するリーフレット発行	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ga_05.pdf
27	活動の写真	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ga_06.pdf
28	「脱原発 経済成長と両立可能」朝日新聞(2014.5.11)	
29	「世界が『読みたい』判決文」朝日新聞 2014.7.13	
30	「関電 2 原発『再稼働反対を』」毎日新聞(2014.8.12)	
31	「原発事故避難計画 兵庫被ばく想定を」京都新聞(2014.8.18)	
32	「『再稼働反対を 県内外の市民団体知事に要望書提出』熊本日々新聞(2014.11.6)	
33	「Mihama test case for Japan's old reactors」Japan Times(2014.9.22)	
34	「安全確保が先決」京都新聞(2014.11.27)	
35	「県外避難所見直しを」朝日新聞福井版(2014.12.10)	
36	「再稼働反対で小浜市に要請」福井新聞(2014.12.10)	

2014年度		37 「再稼働同意『必要』8割」京都新聞(2015.2.27)	
		38 「避難計画問題点を整理」南日本新聞(2014.6.17)	
		39 「被爆地の運動問われている」広島新聞(2015.3.28)	
		最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ga_01.pdf
10	<p>助成先:脱原発をめざす首長会議</p> <p>(企画名) モデル自治体形成と事務局機能の強化</p> <p>(活動内容) ◆避難計画問題 過酷事故が起きた際の住民の安全を確保する避難計画の立案と避難の責任は主に基礎自治体に委ねられている。基礎自治体の首長をメンバーとするネットワーク組織「脱原発をめざす首長会議」はこの問題を深刻にとらえ調査、申し入れ書提出、シンポジウムの開催を行った。</p> <p>◆脱原発社会を実現するための再エネ普及 脱原発社会を実現するためには、政府がベースロード電源と位置付けている原子力に代わるエネルギーが必要である。持続可能であり、環境負荷の少ない再生可能エネルギーを飛躍的に普及させる方針を掲げ、視察、シンポジウム・勉強会などを開催した。</p>	1 4月11日「原発再稼働問題に深く関わる避難計画についての記者会見」	http://mayors.npfree.jp/?cat=6&pageid=3
		2 「原子力災害時の避難計画・避難者受け入れ計画立案状況に関する調査結果」	http://mayors.npfree.jp/wp-content/uploads/2014/04/20140411_report.pdf
		3 4月22日「第39回国会エネルギー調査会(準備会)」への出席	http://mayors.npfree.jp/?p=2550
		4 4月26-27日 年次総会及び勉強会、現地視察を小田原市で開催	http://mayors.npfree.jp/?p=2569
		5 決議 1~3	http://mayors.npfree.jp/wp-content/uploads/2014/04/20140426_statement.pdf
		6 5月9日 原発問題に関する政府への申し入れ	http://mayors.npfree.jp/?p=2652
		7 5月24日 避難計画に関する勉強会を京都市にて開催	http://mayors.npfree.jp/?p=2699
		8 6月1日 川内原発再稼働に関する緊急集会を水俣市にて開催	http://mayors.npfree.jp/?p=2744
		9 7月12日 日独セミナー「原子力から再生可能エネルギーへのシフト」を開催	http://mayors.npfree.jp/?p=2919
		10 日独共同声明	http://mayors.npfree.jp/wp-content/uploads/2014/07/20140712_joint_statement_jp.pdf
		11 「田中知・東大教授の原子力規制委員会委員への就任に抗議する緊急声明」	http://mayors.npfree.jp/wp-content/uploads/2014/07/20140712_statement.pdf
		12 7月16日 川内原発再稼働問題に関する共同記者会見を共催	http://mayors.npfree.jp/?p=2994
		13 脱原発のトルコの首長へ応援・連帯メッセージを送りました	http://mayors.npfree.jp/?p=3100
		14 12月13日 再生可能エネルギーに関する勉強会を開催	http://mayors.npfree.jp/?p=3403

2014年度		15	2月3日 再稼働同意手続きに関する申し入れ書を政府へ提出	http://mayors.npfree.jp/?p=3551
		16	3月14日 原子力防災に関するパブリック・フォーラムを仙台にて開催	http://mayors.npfree.jp/?p=3603
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_kubi_01.pdf
	11	<p>助成先: 低線量被曝の脅威制作委員会</p> <p>(企画名) 『低線量被曝の脅威』制作プロジェクト</p> <p>(活動内容) 助成年度内での映画完成はできなかった。取材中の報告などを共有した、常総生協、森の測定室、関東ネットの方達を中心とした交流により「低線量被ばく」の危険性を再確認でき、多少とも広報活動ができた。</p>	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_hibaku_01.pdf
	12	<p>助成先: まつもと子ども留学基金</p> <p>(企画名) まつもと子ども留学 スタートアップ強化／こころのケアプログラム</p> <p>(活動内容) 東日本大震災で被災した、とりわけ福島で放射能の影響を受けやすい子ども達を福島から自然豊かな長野県松本市四賀地区で生活し、遊び、勉強する施設(子ども寮)を提供し、子ども達の現在と将来の健康と命を守り、健全な育ちを保障することがこの事業の目的である。</p> <p>子ども寮は、親御さんの負担をできる限り少なくするという見地で運営しているので、人件費や運営経費はNPOの会費と市民や団体の寄付でまかなわれている。わずか半年の準備で寮を開設した関係で、財源の心配は大きく、この1年スタートアップ強化として寄付の募集と広報活動、ボランティアなどの人的支援に力を入れてきた。その結果、多くの市民や団体の温かい支援のおかげで運営の土台作りはできてきている。</p>	<p>1 リーフレット最新版(2種)</p> <p>2 ニュースレター(1号～3号)</p> <p>3 「福島の子供『留学』支えよう」市民タイムス(2014.4.2)</p> <p>4 「福島から四賀に 留学の子供にエール」市民タイムス(2014.4.3)</p> <p>5 「『子ども留学』長野へ8人」朝日新聞福島版(2014.4.8)</p> <p>6 「『四賀留学』広がれ支援の輪」市民タイムス(2014.5.13)</p> <p>7 「米国人の善意 避難児童に」市民タイムス(2014.5.28)</p> <p>8 「寮生活の小中学生を激励」「飯館の子供 冬季キャンプ」市民タイムス(2014.12.16)</p> <p>9 「福島の子にわが家提供」中日新聞夕刊(2015.2.15)</p> <p>最終報告書</p>	<p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_matsumoto_03.pdf</p> <p>http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_matsumoto_01.pdf</p>

2014年度	13	<p>助成先:琉球大学理学部海洋自然科学科生物系大瀧研究室</p> <p>(企画名) 放射能汚染地域のチョウにおけるゲノムレベルの遺伝子変異解析/チョウを用いた放射能汚染地域における外部被曝の影響の評価</p> <p>(活動内容) 第一のゲノムプロジェクトについては、高線量地域を含む広範囲の地域からのヤマトシジミの収集、RNA 精製、RNA からのライブラリーの作製、高速シーケンシングまでを行った。精製した RNA サンプルの品質は良好で、品質の高いライブラリーを作製することができ、シーケンス結果も良好であった。しかしながら、配列の生物学的な理解はまだできておらず、具体的な変異部位の特定には至っていない。</p> <p>第二の外部被曝プロジェクトについては、現地の汚染土壌を密閉状態で保持し、その上で沖縄のヤマトシジミを飼育した。その結果、外部被曝条件におけるヤマトシジミの死亡率、異常率、成長率等の評価を行うことができた。</p>	1	ゲノム DNA 解析結果<1>【研究途上のため未公開】	
		2	ゲノム DNA 解析結果<2>【研究途上のため未公開】		
			3	採取土壌線量および死亡率・異常率に関する報告書【研究途上のため未公開】	
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_ryukyu_01.pdf
2014年度	14	<p>助成先:NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね</p> <p>(企画名) たらちねβ線核種測定ラボ開設プロジェクト</p> <p>(活動内容) β線の測定という難しい事業が本格的に動き出したのは2014年6月からである。測定法もいくつかの選択肢があり、市民測定室で行うにはどの方法が妥当であり、私たちの暮らしに役立つかなど検討すべきことは多々あった。 寄付集めだけでなく、ラボのデザイン設計、機材の選定、役所への許可申請、近隣関係者への理解と協力依頼など多くのハードルを越えながらラボの開設にこぎつけた。</p>	1	BS 朝日放送(2014.8.30)	
		2	日々の新聞 掲載 2 回	http://www.hibinoshinbun.com/index.html	
		3	「市民測定室だより」第 293 号	http://www.hibinoshinbun.com/files/293/293_toku2.html	
		4	藤原新也「原発問題一億総健忘症の中で。」Toriino Vol.33(2014.12.20)		
		5	福島中央テレビ 震災関連番組の中でたらちねベータラボについて放映(2015.3.8)		
		6	韓国 SBS テレビでベータラボについて放映(2015.3)		
		7	「市民測定所初のβ線ラボ『たらちね』を見学しました」べぐれでねが(2015.4.25)	http://beguredenega.com/archives/4145	
		8	NPO 法人 いわき放射能市民測定室たらちねサイト	http://www.iwakisokuteishitu.com/	
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_tarachine_01.pdf	

2014年度	15	助成先:NPO法人 沖縄・球美の里	1	35 次保養(42 名に対し甲状腺エコー検診を実施)	
		(企画名) 福島の子どもの保養施設における医療充実化プロジェクト	2	36 次保養(参加者:子ども 53 名)	
		(活動内容) 福島の子どもたちが健康に安全に過ごせる保養施設として、現在2か月に3回約10日間の保養を自然豊かな沖縄県久米島にて実施している。 今年度からは医師を招き甲状腺検診および健康相談ができるよう、医療面での充実に取り組んできた。11月から医師を招き、甲状腺検診および健康相談会を実施。現在までに甲状腺検診・及び健康診断を受けた保養者人数は150人、うち子どもの数は計91人となっている。	3	37 次保養(参加者:子ども 54 名)	
			4	38 次保養(33 名に対し甲状腺エコー検診を実施)	
			5	39 次保養(29 名に対し甲状腺エコー検診を実施)	
			6	40 次保養(44 名に対し甲状腺エコー検診を実施)	
			7	「沖縄・球美の里における医療充実化プロジェクトについて」	http://kuminosato.net/archives/2848/
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_kumi_01.pdf
2014年度	16	助成先:みんなのデータサイト運営委員会	1	本件プロジェクトのデータベースシステムを構築し、プロジェクト情報を整理して各種ページを作成し、ウェブサイトとして公開した。	http://www.minnanods.net/soil/
		(企画名) 知ろう! 測ろう! つながろう! 市民による東日本土壌ベクレル測定プロジェクト	2	本件プロジェクトによる新規の土壌サンプル採取(約160カ所)を実施し、本件プロジェクトのウェブサイトには、先行して採取していた土壌サンプルをあわせて約470件のデータを登録し、公開した。	http://www.minnanods.net/mrdatasoilsearch?rows=100&year_s=&month_s=&year_e=&month_e=&food=&order_by=mrdate&order_by_desc=1&mrdate=1&clubid=mds2
		(活動内容) このプロジェクトは、各地の市民グループと複数の市民測定所が協力し、東日本の広範囲にわたる土壌を採取し、放射能を測定することにより、福島第一原発事故による広域の放射能汚染の広がりを明らかにすることを目指している。今期(2015年3月までのフェーズ1)は、パイロット的に、体制の整った地域からプロジェクトをスタートさせた。結果として、2015年3月までに、土壌測定プロジェクトの目的や実施方法、参加・協力の呼びかけなどを含めたウェブサイト http://www.minnanods.net/soil/ のシステムとデザインを完成させ、宮城、岩手を中心に、470件以上の土壌測定結果のデータを登録して、一般に公開した。	3	2015/3/29「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト第一回測定室&市民交流会」を実施した。	http://minnanodatasite.blogspot.jp/2015/04/3291.html
			4	本件プロジェクトに関するクラウドファンディングのサイトを作成、公開し、資金調達に努めている(6月21日に目標額達成)。	https://moon-shot.org/projects/68
			5	土壌マップシステムを準備し、3月29日に先行公開した。	http://www.minnanods.net/soil/pref17/map17.html
			6	3月13日に『週刊金曜日』にて事務局石丸のインタビュー「市民放射能測定所が見た“汚染”のいま」が掲載され、土壌プロジェクトについても告知された。	
				最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2015/07/abt_2014report_minna_01.pdf

東アジア環境交流プロジェクト

	助成先/企画名/活動内容	成果物	
2011年度	<p>助成先: 日中市民社会ネットワーク</p> <p>(企画名) 屋久島プロジェクト「自然共生型社会の実現にエコツーリズムはどう貢献できるか——東アジアの人的・知的ネットワーク形成に向けて」</p> <p>(活動内容) エコツーリズムの草分け的存在であり、自然共生型社会を長年模索してきた地域として、経験と実践知、人材を育ててきた屋久島。ここを最初の足がかりに、東アジア(本プロジェクトでは主に日本と中国)で自然と人間の文化とのつながりを見直そうとするエコツーリズムの実践者・関係者が情報を共有し、顔の見える交流を行い、東アジアにふさわしい「自然共生型社会」の実現に向けてエコツーリズムの進化＝深化に結びつくようなネットワークを創出する。</p> <p>■プロジェクト始動記念サロンin上海(2011年4月) 環境NGO、出版関係者、日本観光局上海事務所の担当者、旅行愛好者など20数人が参加した。屋久島プロジェクトの紹介、震災・原発事故後の日本観光やエコツーリズムに関する議論、震災ボランティア活動の報告などを行った。</p> <p>■屋久島プロジェクト視察ツアー(2011年6月) 10月のフォーラムに向けて、中国側のカウンターパートと5泊6日の屋久島視察を実施。屋久島在住の環境保護活動家や芸術家、もと行政関係者と会談し、島の歴史、文化、自然環境について体験学習を行った。</p> <p>■雲南三江併流地域視察ツアー(2011年8月) 屋久島プロジェクト関係者が雲南省の昆明、ジャングリラ、梅里雪山及び白馬雪山自然保護区を訪れ、現地の環境専門家及び実践家と交流した。</p> <p>■屋久島雲南フォーラム(2011年10月) 中国から7名の参加者が屋久島を訪問、交流フォーラムで日中双方が各自の活動について発表し、議論を交わした、その後はゴミ処理場を見学、エコツアーを体験した。</p> <p>■屋久島コラムとメルマガ記事 2012年3月末まで、屋久島プロジェクトの特集コラムの記事は、今回の報告書を含めて合計日本語12本、中国語11本をCSネットウェブサイトに掲載し、メルマガ記事は日本語・中国語とも10本を発信した。</p>	プロジェクト活動報告	http://csnet.asia/archives/8711

2012年度	<p>助成先: 日中市民社会ネットワーク</p> <p>(企画名) 世界遺産地域を結ぶ市民協働: 東アジアにおける自然共生型社会の実現をめざす人的・知的ネットワークの形成 (Year 2)</p> <p>(活動内容) ■2012年6月に、中国雲南省昆明市で「雲南・屋久島自然共生型社会交流会」を行い、30人以上のNGO関係者が参加した。その後、白馬雪山自然保護区と梅里雪山国立公園で視察ツアーを実施し、日本から現地入りした専門家が視察の成果を踏まえつつ研修ワークショップを2回行った。保護区の職員や地域住民など約25人の受講生がワークショップに参加し、保護区の環境教育という役割や地域活性化について議論を重ねた。専門家は視察の結果について保護区への提言を報告書にまとめた。</p> <p>■2013年1月に、中国環境NGO代表者3名を招き、屋久島視察ツアーを行った。うみがめ館やゴミ処理場などを見学し、自然体験ツアーに参加して島の自然環境を視察した。北京大学教授、山水自然保護区センター設立者の呂植先生と上海益優青年服務センター代表の張寧さんがそれぞれの活動について紹介し、参加者と交流した。</p>	1	雲南視察ツアー2012 報告: 雲南視察ツアー2012について: 専門家の感想と提言I	http://csnet.asia/archives/9941?cat_num=485
		2	雲南視察ツアー2012 報告: 雲南視察ツアー2012について: 専門家の感想と提言II	http://csnet.asia/archives/9943?cat_num=485
		3	「雲南・屋久島自然共生交流会」記事: 雲南西双版纳(シーサンパンナ)植物園 HP	
		4	白馬雪山エコツアー発展の道に思いをはせる	http://csnet.asia/archives/10144?cat_num=485
		5	東アジアネットワークへ: 韓国世界自然遺産「済州島」の現状	http://csnet.asia/archives/13257?cat_num=485
			最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2013/06/abt_2012report_kankyokoryu.pdf
2013年度	<p>助成先: 日中市民社会ネットワーク</p> <p>(企画名) 上海エコフェア2013: 東アジア自然共生型社会の実現をめざす人的・知的ネットワークの形成 (Year 3)</p> <p>(活動内容) これまで行ってきた地域間交流から次のステップに進み、より多くの具体的な連携を生み出すために2014年3月8日～10日に上海で「東アジア地球市民村(準備ゼロ回)」を開催した。</p> <p>初日の3月8日は、「半農半X」を提唱する塩見直紀さんの基調講演から始まり、自然教育、農業と食、廃棄物、エコ建築、エコツアーなど様々な分野から参加するゲストたちによるスピーチやワークショップが三箇所で開催された。展示会では、出展団体のブースやゲストから集めた推薦書を展示するコーナー、音楽パフォーマンスができるステージを設け、自然食品の青空市場では、たくさんの地域住民が集まった。また、約100人の参加者は上海近郊にあるエコビレッジの岑ト村を訪れ、農業や自然教育を行う都会からの移住者と交流した。</p> <p>3月9日は、中野民夫さんがファシリテーションを務めたワークショップを開催。「自分が関心を寄せる環境問題」、「東アジアの環境問題」、「自分たちにできること」、「自然教育」、「有機農業」、「食育」、「エコライフ」などが焦点となった。</p> <p>3月10日は、30人が参加するスタディツアーを実施し、崇明島で自然農を実践する若者と交流した。</p>	1	「東アジア地球市民村 2014」上海にて開催	http://csnet.asia/archives/15748?cat_num=485
		2	メディア報道(上海社会組織 HP)	
		3	中央集権式発展に反対: 星川淳さんのインタビュー(復旦商業知識HP)	http://bk.fudan.edu.cn/d-1376283281072
		4	Xを探る: 塩見直紀さんのインタビュー(復旦商業知識HP)	http://bk.fudan.edu.cn/d-1376283336475
		5	『2014 地球市民村 in 上海』に参加して	http://csnet.asia/archives/16011
		6	自然共生型社会を目指す: 「東アジア地球市民村2014in上海」に参加してby大友映男	http://csnet.asia/archives/15914
		7	キラキラした目を持つ青年たち: 「東アジア地球市民村」参加者感想by高木晴光	http://csnet.asia/archives/15873
		8	活動報告	http://csnet.asia/whoweare/activityreport
	上海で友情を育む～東アジアの明るい未来(ニューズレター平和の種)	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_csnet_03.pdf		
	最終報告書	http://www.actbeyondtrust.org/wp-content/uploads/2014/06/abt_2013report_csnet_01.pdf		